

調査マン今昔物語



UBS証券株式会社株式調査部 マネージングディレクター
山口 敦 CMA

偉大な先輩アナリストの方々も徐々に証券界から卒業し、ふと周りを見回すと、いつの間にか、自分も古株の一角を占めるようになった。企業調査一筋で、今年で26年目となる。他の仕事は経験していないので、全く潰しが効かない。狭く、深いキャリアを体験してきた。この間、調査マンを取り巻く環境も激変した。入社時、現在のように、パソコンは普及しておらず、レポートはワープロで執筆、グラフは方眼紙で作図し、メンディングテープで曲がらないように貼り付けていた（手動ウィンドウズだった）。上司から修正が入った場合、丁寧にグラフをはがして、もう一度貼り付けたものである。現在では、パソコンやインターネットの普及によって、オフィスだけでなく、空港でも、出張先でもレポートの執筆が可能となった。データ処理が高速化し、多数のグラフや写真などを挿入した資料作成が容易にできるようになった。当時、ブルームバーグのような端末はなく、株価はQUICKでチェックし、ニュースフローは、報道機関からのFAXで確認した。新入社員は、長く伸びたFAXから株価に影響を与えるような記事を探し出し、担当の先輩の机に走ったものだ。決算短信は現在のようにダウンロードはできず、東証に大きな袋を持っていき、サンタクロースのような格好でオフィスに戻ってから、業種ごとの仕分けを行った。IT技術の進歩は素晴らしく、われわれの仕事の生産性を劇的に引き上げている。